



2009年8月

図書館 まなびトーク

学人ニュース

図書館を利用して行った生涯学習の発表会

発見と広がり

図書館 まなびトーク

千葉県立西部図書館では、今年6月13日に入館者500万人到達の節目を迎えましたことを記念して、7月24日（金）午後1時30分から、当館研修室において今年度第2回目（通算3回目）の図書館まなびトークを開催しました。

今回は、末満宗治さん、三沢博志さんお二人のご応募をいただき、それぞれ「無いものを図書館で探す」、「調べることはおもしろい・・・～自然誌関係文献目録編集の経験から～」のテーマで発表してくださいました。また、記念開催に関連して当館職員より、「西部図書館のあゆみ」紹介と、発表テーマに関連したワンポイント図書館活用ミニ講座を行いました。（発表要旨は次ページ以降をご覧ください。）

当日は、37名の方がお二人の学習体験の発表に熱心に聞き入り、参加者からは自分の今後の学習のためにとても勉強になったとのご感想が多数寄せられました。

次回は10月30日（金）に開催予定です。

～プログラム紹介～

西部図書館のあゆみ 当館職員

発表：末満 宗治さん「無いものを図書館で探す」

～ 休憩 ～

発表：三沢 博志さん「調べることはおもしろい・・・
～自然誌関係文献目録編集の経験から～」

ワンポイント図書館活用 当館職員

「千葉県の地図を探す」

質疑応答

情報交換



参加者の声

（アンケートのご意見から）

身近な地名等に「歴史」＝「その時代の人の生きてきた過程」の秘密がひそんでいることが、新たな“発見”であった。発表者の方がとてもわかりやすく調べ方やテーマのを見つけ方（着眼点）を話して下さったので、これからの自分の「生涯学習」に活かしていけると思う。

（無記入）

三沢さんのお話のうち、学習（研究）内容もさることながら、「広がる世界」「連鎖の魅力」...の部分と同感でき、又励まされる想いであります。

（松戸市 71歳）

利用者の方々がいかに図書館を使いこなしているか、又、図書館側もそれに応えようとしていることがよく解かる企画でした。興味があっても自分一人では調べ上げることが難しいテーマを、よくぞ掘り下げたものだと思います。大変興味深く拝聴致しました。

（松戸市 47歳）

「図書館 まなびトーク」とは...図書館で学ぶ人たち（学人＝まなびと）の学習体験の発表、交流（＝トーク）の場として、また日常の生涯学習の場として図書館をもっと活用していただきたいという思いから名づけました。（今後の開催予定：10/30（金）、2/26（金））

発表要旨 (* 要旨は発表者から提出されたものです)



無いものを図書館で探す

スエミツ 末満
ムネハル 宗治

松戸の地名 (大字 : 昔の村名) に、冠付きのものが 13 見られる。そのうち分村、合併を除き、上本郷、南花島、中金杉、中和倉は対になる地名がない。どこにあるのか、或いはあったのか。その由来や如何。

1 はじめに

地名はそれ自体固有の立脚点をもち、また歴史を反映することがあり、或いは時に歴史の基を造ることがある。また地名で冠を付けるものは、時代の進展によって、分割され、或いは区分されるなどの歴史を経ているものである。松戸においても同様であるが、松戸の現大字で、旧村でかつ冠付きのもの 13 のうち、小根本、上矢切、中矢切、下矢切、殿平賀、久保平賀、東平賀、外河原 (江戸川河川敷の中にあり、後移転) の 8 は分割・区分が明らかと考えられ、中根は根本の対と考えられるのに対し、上本郷、南花島、中金杉、中和倉の 4 は、地名の冠「上」、「南」、「中」から、対として「下」、「北」、「上・下若しくは東西南北」の地名を伴うことが必須又は前提となると考えられるところ、その対となる地名が見当たらない。果たしてその経過・由来や如何。これがテーマである。

2 信頼できる資料でこの 4 村を調べる。

日本の地名について全国ベースで信頼できる資料としては、日本歴史地名大系 (平凡社) と 角川日本地名大辞典が挙げられる。そこで両書 (千葉県版) と 千葉県地名変遷総覧 (千葉県立中央図書館) で、これら 4 村をみってみる。

(1) 上本郷村 古文書では、1486, 1584, 1608, 1700 年等本郷村であり、風早郷 (後に庄) の本拠地 = 本郷であることを裏付けるものがあるが、「上」と付けた経緯には共に触れない。に、栗原本郷に対して上本郷というところ。江戸時代の知行は主に旗本佐野氏 禄高 540 石

(2) 南花島村 古文書では、1625, 1699 年花島村とあるが、元禄郷帳には南花島村とある。その経緯を詳らかにしない。江戸時代の知行は主に旗本齊藤氏 200 石

(3) 中金杉村 古文書では、1406, 1501 年金杉、カ子スキとある。金杉の地名は日下総国内に現野田市、船橋市にもあるという。江戸時代知行は旗本小栗、筒井氏

(4) 中和倉村 1650 年頃の旧知行高付帳には中輪蔵村、1699, 1716 ~ 36 頃の古文書で中和倉村だが、「中」の由来を示すものはない。江戸時代知行上本郷村に同じ。

3 手掛りのあるものから追跡する。

この 4 村で手掛りのある本郷と金杉について見る。

(1) 下総国葛飾郡内で、共に本郷村で推移してきた風早郷と栗原郷の本拠地のうち、風早郷だけが元禄郷帳で「上本郷村」となった。

(2) 現野田市の金杉村は、金曾木の転訛で台地等の傾斜地 (日本古語辞典) を意味するとされ、葛飾郡のうち、元は江戸川両岸にあり、右岸が本村であり野田市側は飛地であるという。

現船橋市の金杉村は、古くは金曾木といい、葛飾郡のうち。元禄郷帳で南金杉村となった。では同郡内の金杉村 (現野田市) と区別するため南を冠したのであるという。

4 手掛りを求めて郡内を探す。

3 の (1) (2) とともに、郡内で同名の村を区別するために冠付けされたようである。では花島村が葛飾郡内にあったか。葛飾郡は下総国内であるが、その範囲は、現在の船橋 (全域ではない) ・市川・浦安・松戸・流山・野田・柏 (全域ではない) の各市から西は隅田川まで、北は栗橋辺りまでを含み、現在の千葉県西北部、茨城県の一部、東京都の葛飾区、埼玉県の三郷市、吉川市、幸手市辺りまでを包含する広い地域である。

(1) 葛飾郡の中で花島村がいま一つ現幸手市にあることが解った。この花島村は戸数の少ない小村であるが、江戸時代を通じて花島村であり、後に下総国葛飾郡ではなくなった。

(2) 和倉村又は輪蔵村は葛飾郡内には見当たらず、全国を探しても、和倉村が福井県に 1 村あるだけで、冠付きのものはない。

5 不統一の原因を考える。

元禄郷帳で村名に冠が付されたというについては、同一郡内に同名の村があるときは、冠を付けるなどして区別が明確になるようにせよとの幕府の達しがあったという。(達しは不分明) これは飛脚などの発達で宛先の明確化を図ったものであろう。

これに対し、松戸域ではいち早く反応し、郡内の村名を調べて、対の位置が、北にあれば南を、北、南にあれば中を、南にあるが早い者勝ちで「上」をと、幕府に届け出たと推測される。文書は見出されていないようなので推測に留まるが、こうして松戸域の同名村の冠は先決されたが、現船橋市の金杉以外は反応を示さなかった。

その原因としては、栗原本郷では「下」を肯んじなかった。栗原本郷は、旗本成瀬氏の知行であり、関が原の功で栗原藩 35000 石の大名となり、幕府の通達等無視したか又は本郷はここだけになったと主張したのかも知れない。

花島村も、幸手の方はいまやここだけであるとし、また金杉村も、現野田市の方はもはや重なりは無いとしてなりを潜めたということであつたらうか。

幕府としては郡内に同一名村がなければ良しとして不問に付したか或いは解決済みということにしたのかも知れない。

6 残る問題

中和倉村の「中」の由来については不明のままである。
(付言)いつの頃か古い時代に、一文字の村名は好ましくないとして、二文字以上に改名ということがあったと聞

いたことがある。松戸市域に一文字の村名は見当たらないが、流山市には、加・木・谷・中等一文字が目立つ。経緯や如何。

～ワンポイント図書館活用ミニ講座～ 千葉県地図を探す

地図は、図書館では本と同じように検索できる地図帳があったり、地形図のように1枚で書棚に並べられない形態の場合は別に保管されていたりと、パソコンで一括で蔵書検索をすることができない状態ですので、利用者の皆様にはご不便をおかけしています。今回は地図のなかでも特にご利用が多いものについて資料リスト「千葉県の地図を探す」によりご紹介いたします。

このリストでご紹介している資料のうち、県立図書館で所蔵している資料には請求記号を記入してあります。最近ではインターネットでも様々な地図情報が手に入りますが、インターネット情報の場合にはURL(アドレス)を記入しています。

現在の地図では、道路地図、住宅地図、地形図など縮尺の異なる資料や、地価図、防災地図のように特定の情報に絞って作られた地図があります。求める情報に応じて使い分けができます。地形図や航空写真はインターネット上で得られる情報も増えてきています。

昔の地図については、図書館では復刻版の地図を所蔵していますので、手軽に利用することができます。また、インターネット上では、各所蔵機関が古い地図を画像として掲載していることもあります。



調べることはおもしろい・・・ ～自然誌関係文献目録編集の経験から～

ミサワ ヒロシ
三沢 博志

船橋市自然誌関係文献目録(2001)及び白井市自然誌関係文献目録(2009)の編集をしてきましたが、どのようなきっかけで始め、また、どのように図書館などで文献の調査をしてきたのかを中心にお話したいと考えています。

1. はじめに

私は、2001年と2009年に船橋市と白井市の自然関係文献目録を編集いたしました。自然関係とは、地質、植物、動物のことです。そのような文献目録をまとめようとしたきっかけは、「採らないで見ると」という『自然観察』の方法を知り、自然との係わりをもったことにあります。1989年に自然観察指導員の講習会を受講したのを契機に、近くの森をフィールドとして、身近な自然とのつきあいが始まりました。

2. 文献を調べる

自然観察を続ける中で、この周辺の地質や動植物を知りたいと思い、図書館で調べ始めました。まずは、船橋市西図書館や千葉県立中央図書館で、書誌を活用して調べました。

『千葉県郷土資料総合目録』、『千葉県自然誌関係文献目録地学編、植物編、動物編』、『千葉県地学関係文献目録』などを利用しました。『房総研究文献総覧 新訂』も活用しました。

このようにして調べた200ほどの文献を分類毎に分け、1998年1月に「船橋市自然誌関係文献目録」の第1次案としてまとめました。残りのわずかな補充調査で文献目録は完成できるものと思っていました。と同時に、目録作成は既に他の誰かが行っているのではないかと、目録作成に意味があるのか、といった疑問をかかえつつもありませんでした。

そんな時、千葉県生物学会会長であった故吉田治先生と、お会いしました。目録作成を勧めていただいただけでなく、文献調査についてのアドバイスや多くの研究者を紹介していただいたりしました。迷いを払拭したばかりか、大いに弾みもつきました。また、千葉県立中央

博物館の桑原和之先生との出会いによって、発表の場を紹介していただいたばかりか、その後、様々な共同研究に参加させていただくことになりました。人との出会いというものが、ひとつの仕事を成し遂げる上で重要なことだと思いました。

先生方からのアドバイスなどから、更に文献調査を続けることになりましたが、その一つが専門書誌の活用です。『日本植物分類学文献総目録』、『日本産蝶類文献目録』や、『千葉県産シダ植物の注釈付き文献目録』も活用しました。『日本書誌総覧』は、最近出版されたものですが、あらゆる分野の調査や研究の際に活用できるものです。

文献調査を続けたもう一つの方法は、自然系を中心とした逐次刊行物の全号調査でした。書誌には収録されていない文献がまだあるのではないかと考えたからです。調査の対象としたのは、専門誌・学会誌・会報など約150誌です。主に千葉県立中央図書館・西部図書館や東京都立中央図書館、国立国会図書館で調べました。

専門図書館も利用しました。特に印象深かったのは国立科学博物館図書室と山階鳥類研究所図書室です。千葉県立中央博物館図書室などでも文献調査も行いました。

その結果、第1次案から3年7カ月後の2001年8月に973件を収録した『船橋市自然誌関係文献目録』を完成させることができました。その後、2009年3月に「白井市自然誌関係文献目録」を編集し、『白井市生物多様性調査報告書』に収録されました。

3. 文献目録を作成して

私の役割は、文献を調査することです。文献を活用し、解析するのは、研究者の仕事と考えています。そのため、文献目録を編集して、何が解ったかという結果については報告できるほどのものはありませんが、いくつかの話題を

紹介させていただきたいと思います。

フナバシソウの発見と吉川代之助（船橋）

1960年6月、吉川代之助さんは船橋市丸山町の自宅近くで見知らぬ植物を見つけました。早速国立科学博物館で調べてもらったところ、アメリカ産のキク科植物で、日本ではまだ発見されたことのないものと判明しました。国内で初記録の帰化植物のため、発見地の地名に因み、フナバシソウと命名されました。船橋の地名がついた植物は、この一種のみ。

吉川代之助さんは、1897年東京生まれで、1957年60歳の時に、船橋市に転居。この時から本格的に植物採集を始め、採集地は関東甲信越を中心に全国に及んでいます。吉川さんは73歳から約10年間、船橋市内の植物をエネルギーに調査し、82歳の時に「千葉県船橋市野外植物目録」を出版しましたが、1983年86歳で逝去されました。62歳から86歳までに、80編以上の報文を発表しています。まさに、生涯学習の鑑のような方です。

幻のトウキョウサンショウウオ（船橋）

二宮神社境内の水路改修工事中に、サンショウウオを発見し、調べたところトウキョウサンショウウオであることが判明し、新たな生息地発見と喜びましたが、近くにある大学の実験用のサンショウウオだったとのこと。結局、幻の記録に終わりました。

南方系チョウの北上（船橋・白井）

気候の温暖化が言われておりますが、チョウの世界でも南方系チョウの北上というものもあります。クロコノ

マチョウは、西日本が分布域とされてきましたが、近年分布域を北へ拡大しつつあります。千葉県でも、分布域を拡大していく様子が報告されていましたが、今回の文献調査の結果、船橋市では1999年、白井市では2000年が初記録であることが分かりました。同じようなことは、ムラサキツバメやマグロヒョウモンにも言えます。

昔はカワウソがいた（白井）

カワウソは、国の特別天然記念物に指定されていますが、高知県南西部で1979年に目撃されたのを最後に、その後は目撃されていません。そのカワウソが明治時代には、白井にもいたという文献があります。カワウソが白井のどこにいたのかは記されていませんが、手賀沼の畔で生息していたのでしょうか。たった一行の文章ですが、その当時の風景を思い描くのは楽しいことです。

4. 広がる世界

読書は、1冊読むと、次に読みたい本が出てきて、その本を読むと、また次の本がということがあります。読書の魅力、読書の楽しさはそこにあるのかもしれませんが。

調べることも同じです。調べていると、関連して、次から次へとテーマが広がっていきます。私の例でも、『船橋市自然誌関係文献目録』を出発点として、様々の方向に拡大していっています。次から次へと世界が広がって、まるで、未知の世界に踏み込んでいく、探検家の気分です。とても楽しく、かつ、おもしろいことです。図書館などで調べることは、とてもやめられそうにもありません。

西部図書館のあゆみ

入館者500万人達成

千葉県では、明治40年、公立図書館がほとんどなかった時代から、各地の小学校を拠点にした通俗巡回文庫を始め、また、戦後には、払い下げられた占領軍のジープを使って、日本で初めてといわれる移動図書館を巡回させるなど、県内に均等な図書館サービスを目指してきた。

しかしながら、千葉市を拠点として全県を巡回するのは効率的ではないので、県域を4つのブロックに分け、それぞれに物流センターを置き、近隣の市町村図書館職員を対象に、相互協力、レファレンス、職員研修などを実施するブックセンターが構想された。

その1番目が「東葛飾地方ブックセンター」で、設計の段階では、閲覧席が36席しかないなど、来館者サービスは極めて限定的であったが、その後直接サービスを行うよう方針転換され、1987（昭和62）年、県立西部図書館として開館した。10年目に書庫棟の増築を行い、閲覧席も164席まで増設して現在に至っている。

西部図書館は、交通の便が悪い、駐車場が狭い、利用者用の休憩コーナーがない、浄化槽の処理能力が小さいので悪臭がする、など多数苦情をいただくが、それはみな誕生のいきさつに端を発している。しかしながら、今年の6月には入館者500万人を達成するほどまで、皆さんに利用していただいているので、今後とも愛される図書館を目指して努力していきたい。

情報交換

- ・発表は同じ人が2回、3回と発表できるのか。例えば今回のようなテーマの発表では他（の地域）にも発展するような内容であるので、また聞いてみたいと思ったのだが。
- ・この会は専門の方の話を聞くのではなく、図書館を活用した体験を発表していただくことを趣旨としているので、できるだけ多くの方に発表していただきたいと思っています。話の内容が優れている等ではなく、図書館を使った体験の発表の場として、他に発表の方がいない場合はご希望をお受けすることができるかもしれませんが、それ以外の場合にはできるだけ多くの方に発表していただきたいと思っています。（図書館）
- ・発表はだれにでもできるもので、図書館に資料はたくさんあり、貸出しできないものはコピーなど利用して、「生涯学習」と構えずに、気軽に発表してはどうか。思いつきでも構わないのでぜひ皆さんで交代で発表してほしい。

2009年3月18日開催

湯沢 幾男さん「日本の風土を考える
～二つの風土論から学んだこと」
阿部 幸次さん「樺太アイヌの歴史と山辺安之助の『あいぬ物語』」

2009年5月22日開催

細井 澁さん「良寛和尚の足跡」
岡戸 大國さん「無害な核エネルギーと中央アジアの資源大
国カザフスタンの将来展望」

図書館 まなびトーク 学人（まなびと）ニュース

発行日：平成21年8月11日

編集：千葉県立西部図書館

〒270-2252

千葉県松戸市千駄堀 657-7

TEL 047-385-4133

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

